



2023.5 No.122

- 道産木材を活用した庁舎建築の取組（経理課）
- 留萌北部流域における「新しい林業」の実現に向けて（留萌北部森林管理署）
- こんにちは森林官です！（赤井川森林事務所）
- 令和8年度北海道森林管理局重点取組事項

道産木材を活用した庁舎建築の取組

総務企画部 経理課

写真：新庁舎の梁（道産カラマツ材）

【はじめに】

みなさんは「木でできた建物」と聞くと、どのようなイメージを持ちますか。

木はあたたかくて、いい香りがして、自然を感じられる素材です。日本では古くから、住宅をはじめ、神社や学校など、さまざまな建物に木材が使われてきました。今もなお、木は私たちの生活に身近で親しみのある材料として活用されています。

近年、建築の世界では、こうした魅力に加え、環境面からも木材が注目されています。それは、**地球温暖化の防止に役立つ素材であること**です。木は成長する中で二酸化炭素を吸収し、炭素として体の中にたくわえながら育ちます。この木材を建物として使うことで、炭素を長い間、大気中に戻さずに「貯蔵」することができます。この仕組みは**炭素貯蔵**と呼ばれています。

また、鉄やコンクリートに比べて、木材は製造するときに排出される二酸化炭素が少なく、環境にやさしい建築材料としても評価されています。



～林業は持続可能な循環産業～

【新庁舎の紹介】

北海道森林管理局では、木材の良さを生かし、庁舎や森林事務所の建築に**道産材を積極的に活用**しています。その取組の一例として、令和6年度に新築・建て替えを行った「網走中部森林管理署 温根湯合同森林事務所」を紹介します。

< 温根湯合同森林事務所の概要 >



(旧庁舎)



(新庁舎)

- ・所在地：北海道北見市留辺蘂町
- ・完成年：令和7年1月
- ・構造：木造平屋建
- ・延面積：92㎡
- ・木材利用量：32.7㎡
- ・炭素貯蔵量（CO₂換算）：23 t-CO₂

※道内の森林管理署庁舎の

炭素貯蔵量算出についてはこちら



<建物の特徴>

この庁舎の大きな特徴は、来庁者や職員の目に触れる場所に木材を活用することで、**木のぬくもりを感じられる空間**となっている点です。木材ならではのあたたかみが、訪れる方に親しみやすさと安心感を与えるとともに、職員にとっても、落ち着いて業務に取り組める環境づくりに繋がっています。

<使われた木の種類>

この庁舎には、木の性質や特性を活かし**4種類**の樹種が使われています。

・トドマツ、カラマツ

ゆがみにくく、硬くて丈夫な特性を生かし、柱や梁などの構造材に使用

・ミズナラ

木目が美しく、傷がつきにくいいため、フローリングに使用

・ヒノキ

腐りにくい特性を生かし、建物の土台として使用

【CLT（直交集成板）とは】

CLT（Cross Laminated Timber）は、木の板を繊維方向が交差するように重ねて貼り合わせた木質材料です。

カラマツはとても硬く強い木ですが、そのまま使用すると、乾燥によって反りや割れが生じやすいという欠点があります。CLTは、板の向きを交差させて貼り合わせることで、変形しにくく、安全に建築に利用できるよう工夫された材料です。



～CLTの拡大写真～



～ウッドカーペット（執務室）～



～カラマツ材のCLTを使用した工具掛～

【今後に向けて】

日本は国土の約3分の2を森林が占める、世界有数の森林国です。その森林の多くが本格的な利用期を迎えています。学校や庁舎、商業施設などの非住宅建築では、いまだに鉄やコンクリートが主流であり、木材利用が十分に進んでいないことが課題となっています。

北海道森林管理局では、森林を守り育てながら、木を上手に使う「循環型の森林づくり」を進めています。北海道の森林で育った木材を活用し、環境にやさしく、あたたかく、安心できる空間づくりに取り組んでいます。

庁舎建築を通じて、地域みなさんに木材の大切さを知っていただき、地元の森林や環境に関心を持つきっかけとなるよう、今後も取り組んでいきます。

地域課題の解決に向けた取組

留萌北部流域における「新しい林業」の実現に向けて

留萌北部森林管理署

【はじめに】

留萌北部森林管理署は、北海道北部の西海岸域に位置し、羽幌町、初山別村、遠別町および天塩町の3町1村からなる留萌北部流域（約 170 千 ha）に広がる、約 96 千 ha の国有林を管轄しています。

当流域は、その約 8 割が森林に覆われており、このうち約 7 割を国有林が占めています。これらの国有林は、地域における重要な水資源の涵養や山地災害の防止、自然環境の保全など森林の持つ公益的機能を発揮し、地域の方々の生活環境の保全・形成に重要な役割を果たしています。

また、管内国有林の海岸部では多くの防風保安林が配置されており、風害などによる被害を防備する役割を果たしています。

【地域林業の現状と課題】

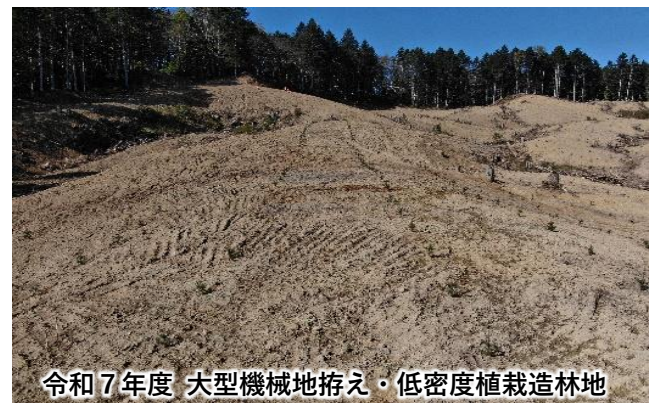
留萌北部流域では、戦後に植えられた人工林の多くが現在、収穫期を迎えています。こうした中、伐採後の再造林を着実に進めていくためには、低コスト・省力化された再造林技術を確立し、地域に普及させることが重要となっています。また、林業を担う人材の確保や労働環境の向上を図ることなどが喫緊の課題となっています。

さらに伐採から再造林、保育までの一連の施策において、収支の改善を図る「新しい林業」の実現に向けた取組を推進し、林業経営の採算性の向上が求められています。

【課題解決に向けた取組】

当署では、「新しい林業」の実現に向け、地拵えに大型機械を活用することで、笹等の植生の回復を遅らせ、下刈りの省略を図り、機械で実施できるよう植栽幅を 4 m 確保し、植栽密度は 1,500 本

/ha を基本とするなど、その後の造林・保育作業に機械を活用できる仕様とする事業地の拡大に取り組んでいます。



令和7年度 大型機械地拵え・低密度植栽造林地

さらに、令和6年度及び令和7年度にわたり、「新しい林業」仕様の造林地をテーマに現地勉強会を開催しました。実際の現場を見ながら、低コスト化に向けた工夫や効果を民有林関係者と共有し、普及・定着するように取組を進めています。



令和6年度「造林の低コスト化に向けた現地勉強会」

【今後に向けて】

今後も地域の民有林関係者と連携しながら、造林作業の効率化や省力化につながる取組を広げていきます。勉強会情報発信を通じて、現場で役立つ技術や知識をわかりやすく伝え、留萌北部流域における「新しい林業」の普及・定着を目指します。

こんにちは 森林官です!



石狩森林管理署 赤井川森林事務所
首席森林官 大塚 優佳

【森林事務所の概要】

赤井川森林事務所は札幌市の西側内陸部に位置する赤井川村に所在し、仁木町（銀山担当区）と赤井川村（明治・赤井川担当区）の約 28,500ha の国有林を、主事と 2 名で管轄しています。

仁木町・赤井川村はどちらの自治体も国有林面積の割合が多く、仁木町は町の総面積の約 55%（森林の約 73%）、赤井川村は村の総面積の約 69%（森林の約 80%）を国有林が占めています。

仁木町は「果実とやすらぎの里」として知られ、北海道一のさくらんぼ産地であるほか、ぶどうやりんごなどの果樹栽培が盛んで、ワイナリーも多数立地しています。

赤井川村は四方を山々に囲まれたカルデラ地形が特徴で、札幌市との境界に位置する余市岳（標高 1,488m）には多くの登山客が訪れます。また、キロロスキー場があることから分かるおりの豪雪地帯で、市街地でも最大 170 cm 程の積雪になります。



【森林事務所の業務】

<赤井川村との森林整備協定>

石狩森林管理署と赤井川村は、令和 6 年 1 月に「赤井川地域森林整備協定」を締結し、伐採から販売までの間に丸太を置いておくための共同土場（ストックヤード）の整備や、民有林と国有林の木材を一体的に



伐採・販売する「協調出荷」に向けた取組を進めています。

これまで、伐採する予定の村有林の蓄積量（本数と樹高）調査などを役場の担当者と一緒に行ってきましたが、今年度はストックヤードの整備が行われており、赤井川村有林および国有林の伐採時に活用される予定です。

<地況林況調査>

地況林況調査は業務の中でも大きな割合を占める重要な調査です。植栽されている樹種や蓄積量、下層植生（樹木の下に生育する植物）などを調査し、その結果を元に造林や伐採などの計画を作成します。

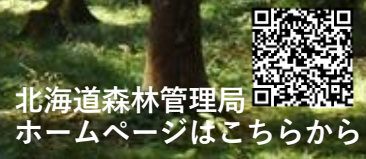
赤井川周辺の森林の下層では人の背丈を超えるチシマザサ（ネマガリダケ）が密生しているため、調査は主に冬期に行います。夏は笹に行く手を阻まれますが、冬は笹が雪に覆われるため、スキーやスノーモビルで楽に移動することができます。



【最後に】

自然の中で仕事をしていると、人の力はちっぽけなことと、反対に自然の力が大きいことを日々実感します。林業は 60 年以上という長いサイクルで成り立つため、私は今植えた苗木が木材として利用される時を見届けることはできませんが、次の世代に豊かな自然環境や森林資源を引き継いでいくための橋渡しができればと思っています。

令和8年度 北海道森林管理局 重点取組事項



【はじめに】

極端な猛暑や大雨など、気候変動に伴い、地球温暖化防止や国土の保全・水源の涵養といった森林の機能への関心が高まっています。また、生物多様性の保全や文化の伝承・振興など、森林には様々な機能が求められています。これらの森林の公益的機能発揮のためには、「伐って、使って、植えて、育てる」という循環を確立しつつ、森林の整備・保全を進めていく必要があります。

このため、北海道森林管理局では、生産性の向上と省力化を図りつつ、森林の整備・保全を適切に進めていくとともに、林業・木材産業、また、地域の振興にも貢献できるよう、これらを通じた木材の安定供給、民有林への技術の普及、森林病虫獣害対策、アイヌ文化の振興などに重点的に取り組みます。さらに、これらの取組状況は SNS 等も活用し、積極的に発信します。

【重視すべき機能に応じた森林の整備と保全】

これまでの森林整備の結果、人工林の資源が充実し公益的機能も増進しています。

林業適地の人工林では、高性能林業機械等による効率的な施業を実施し、木材の安定供給や再造林の着実な実施を進め、これらの成果の民有林への普及等に貢献します。その際に、複層状態の人工林の整備や小面積・モザイク配置に留意した施業を進め、公益的機能の高度な発揮に努めます。

条件が不利な奥地の人工林では、天然力を生かしながら針広混交林化への誘導を推進していきます。

人工林の主伐に際しては、生物多様性の保全の観点から、人工林に侵入した広葉樹などの天然木は積極的に保残していくなど「保持林業」に取り組みます。

【安全・安心なくらしの確保】

林野火災発生時に迅速に対応できるよう北海道及び市町村と連携し全道各地で消火訓練を実施します。



地震などによる大規模災害を想定し、職員による情報収集、応急活動などの訓練を実施し、地域への情報提供・支援の迅速化に努めます。

山地災害危険地区などの緊要度の高いエリアを優先に、国土保全機能の強化に資する治山事業を着実に推進します。

調査・施工・検査のプロセスにおいて ICT の活用や新技術の導入を推進し、省力化・軽労化の実現と工期短縮を図り、事業の効率化と安全性向上に取り組みます。

【「新しい林業」の推進】

伐採から再造林・保育までの収支のプラス転換を可能とする「新しい林業」の実現、担い手の確保に向けて、生産性の向上と省力化が必要です。

このため、丸太生産の各工程の進捗を記録・解析による低い工程の「見える化」、針葉樹低質材の層積検知による省力化により、生産性向上に取り組みます。また、地拵えの大型林業機械の活用や低密度植栽を推進し、その後の造林作業に機械を活用できる仕様とする事業地の拡大に取り組みます。



【道産材の安定供給】

運転手不足などにより原木輸送に支障が生じたり、外国産広葉樹丸太の輸入が困難となる中、道産材の安定供給を進めるため、原木の輸送効率化や協調出荷による民有林材の販路拡大を図るため中間土場（ストックヤード）の新たな設置に向けた環境整備を進めます。



施業を通じて生産される広葉樹は、需要ニーズを踏まえた採材・仕分けを行い、銘木市などで積極的に販売します。

【森林病虫獣害対策】

エゾシカによる森林被害の軽減に向け、捕獲事業の強化や捕獲向上のための銃猟区域の強化に取り組めます。

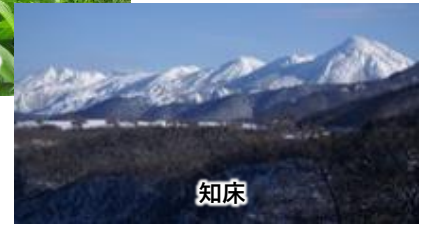
ヒグマ被害防止のため、新たに緩衝帯の整備のほか、林業従事者の安全確保の徹底、出没情報や捕獲場所の提供強化、山の実なり調査などに取り組めます。



ナラ枯れ被害拡大防止に向け、被害の早期発見・特定及び防除等に取り組めます。

【優れた自然環境の保全】

生物多様性を保全していく上で重要な箇所を引き続き保護林に設定し、希少な野生生物などが生息・生育していけるよう厳格な保護管理に取り組めます。



【アイヌ文化の振興、適時・的確な情報発信】

アイヌ文化を象徴する北海道古来の森林の保全・再生に地域や関係機関と協働・連携して取り組みます。



アイヌ文化の振興・普及に向け、地元自治体などの要望を踏まえた森林づくりや林産物の供給などを行います。



【最後に】

北海道森林管理局では、これらの取組のほか、様々な事業の実施を通じて、CO₂ 森林吸収源対策や生物多様性の保全の推進、さらには、持続可能な地域社会の実現に向け取り組んでまいります。

また、参加者を公募し実施する現地見学会や森林ふれあいイベントの開催を各種予定しているほか、森林・林業普及のための様々なコンテンツの発信を予定しております。

詳しくは、北海道森林管理局ホームページをご覧ください。

各地からの便り



「各地からの便り」の詳細は

森もりスクエア

検索

二十間道路桜並木 環境保全活動・ ボランティア活動



【日高南部森林管理署】

4月11日、新ひだか町の桜の名所二十間道路桜並木において、2026春二十間道路桜並木環境保全活動・ボランティア活動が実施されました。この二十間道路桜並木は、約7kmの直線道路左右に桜が造成された道内の桜の名所として、桜のトンネルとしても知られている場所です。その桜並木の約半分の4kmのごみ拾いを行いました。多くは桜、カラマツなどの折れ枝や、その他の燃えるごみで、環境整備に貢献しました。

今年も実施しました！ ポロト自然休養林の 浮橋清掃



【胆振東部森林管理署】

4月14日、昨年に引き続き、白老町のポロト自然休養林にある植物観察用浮橋の清掃を実施しました。毎年多くの方が利用し、特に春には浮橋から見えるミズバショウを目当てに来られる方も多く、安全に利用していただくために浮橋の清掃を行いました。清掃中も鮮やかな緑と白のミズバショウはとても目を引きまします。今後ともポロト自然休養林を含む国有林の適切な管理に取り組んでいきます。

まといリスと一緒に 山火事防止



【網走西部森林管理署】

4月10日から5月20日まで林野火災予防強調期間のため、森林管理署及び各森林事務所敷地内に山火事注意の旗とのぼりを設置し、署内受付口には、まといリスがモデルの山火事注意リーフアートを飾りました。まといリスは、55年前に山火事防止のシンボルマークとして制定された纏（まとい）を持つキャラクターで、山火事予防運動等の普及啓発活動に使用されています。今後もまといリスと一緒に、林野火災の未然防止に努めます。

林野火災空中消火訓練 を行いました -大規模火災に備えて-



【渡島森林管理署】

4月20日、「令和8年度 渡島森林管理署林野火災空中消火訓練」を実施しました。毎年実施しており、今年は近隣森林管理署、振興局、町及び八雲町消防本部の総勢43名による官民合同訓練となりました。各機材の操作方法やホースの扱い方などの実演を行い、消防本部職員などが随時指導しつつ、訓練を実施しました。最後に八雲町消防本部署長から、今後の乾燥期における火災予防の重要性について注意喚起がありました。

もり
広報 「北の森林 国有林」5月号
発行 林野庁北海道森林管理局
編集 総務企画部 企画課

〒064-8537

札幌市中央区宮の森3条7丁目70

電話 011-622-5213

HP <https://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/>



【今月の表紙 パイロットフォレストの望楼】

今月の表紙は、厚岸町と標茶町に跨るパイロットフォレストの望楼（展望台）です。

年に一度、カラマツ林一面が黄金になる秋頃に一般開放を予定しています。お楽しみに！



今月の表紙